

# 15地区サッカー協会



(一社)札幌地区



北空知地区



函館地区



千歳地区



小樽地区



道北地区



空知地区



オホーツク地区



釧路地区



根室地区



室蘭地区



宗谷地区



【札幌地区】

## 「グラスルーツ事業部会」立ち上げにあたって



一般社団法人札幌地区サッカー協会 専務理事・キッズ委員 佐賀 主昌

(一社)札幌地区サッカー協会(以下 本協会)では、ここ数年、「フットボール環境づくり事業」「普及拡大事業」「技術力向上事業」の3つの事業を活動における大切な柱とし、それを支えるための「協会組織づくり」を重点において、活動の充実を図ってまいりました。その中でも、特にフットボール環境を整え、多くの人々にサッカーに興味をもってもらい、楽しんでもらうために、今年度新たに包括的、横断的に協会内の各委員会・種別をつなぐ「グラスルーツ事業部会」をこれまでの「普及部会」の発展的位置付けとしてスタートさせました。折しもこの春、(公財)北海道サッカー協会(以下HKFA)が発表した「HKFA中期ビジョン」の中にも「登録者数の維持」として、普及活動やグラスルーツ活動の重要性が謳われています。本協会としても、このビジョンの達成のために微力ながら後方支援をしたいと考えています。

スポーツ基本法の前文には、「スポーツは、心身の健康の保持増進にも重要な役割を果たすものであり、健康で活気に満ちた長寿社会の実現に不可欠」と規定されています。また、室伏広治スポーツ庁長官も令和7年度年頭

のあいさつとして「共生社会や健康長寿社会の実現に資する好事例や先端技術を活用した新しい『する』『みる』『ささえる』等のスポーツに係る取組の発信等を行い、スポーツの多様性や新たな可能性を国内外に訴求したいと思えます。」と述べています。本協会としては、サッカーを通じてスポーツに求められていることや、社会情勢にも貢献できる法人でありたいと考えています。誰もが参加できる「する」に対して力を入れていくことはもちろんのこと、「みる」「ささえる」にも力を入れていくことが喫緊の課題であるにとらえています。

そこで、種別を越えた事業の開催、選手・チームの関係者が事業への参加ができる環境づくり、障がい者スポーツ団体との連携、サッカー以外のスポーツ団体との協力、インクルーシブスポーツとしてのウォーキングフットボールの推奨、運営スタッフ・指導者・審判員などの新規開拓や育成などの取組を積極的に進めていきたいと考えているところです。HKFAや道内の他の地区協会とのつながりを大切にしながら、北海道のサッカー、スポーツの盛り上がりを後押ししていきたいと思っています。

## 【函館地区】

## 函館地区協会について



函館地区サッカー協会 理事長 山下 浩司

函館フットボールパークが共用開始から10年になります。この間、地区の試合のみならず数多くの大会やイベント、ランニングコースの利用や試合の熱心な応援、さらには他種目の世界大会も行われるなど地元根付いた施設になっています。選手やサポーターなど、来場される皆さんが丁寧に使ってくださることや地区協会所属の皆さんの協力によるものです。特にシーズン直前の除雪作業については都合をつけて集まっていたいただき汗だくになりながらこなしていただいております、感謝いたします。

さて、女子については競技者のすそ野は広がってきましたが、女子の試合を地区の女子審判員で、また、その運営も女子で行うことができるよう関わる人数を増やしていく取り組みが必要と感じています。

また、ウェルフェアオフィサーについてはマッチ、クラブともに多くの方々が資格を取得されました。今後はどの試合にもウェルフェアオフィサーが設置され、選手が安心して取り組める環境を協力して作っていききたいと思います。

なお、選手や審判員など登録にかかわっては、進学や就職・転勤など、大きく環境が変化する時期に継続されないという状況がありますので地元に残っていれば種別間で、他地区や他地域への異動は協会間で情報の共有を密にとることで登録減を防ぐ手だてとしたいです。

キッズのフェスティバルや巡回などとおし、一人でも多くの子どもたちにサッカーをする楽しさ、見る楽しさ、応援する楽しさを伝えていくことが地区の大きな目標であり課題であり、そして役割でもあります。レクリエーションから競技会まで、目標や楽しみは様々ですが、子どもたちがフィールドでボールを追いかける。それがやがてサッカーは生涯続けられるスポーツなのだということにつながっていきます。おとなも子どももみんなが楽しむことができるよう、よりよい環境整備と情報発信に努力していこうと思います。そして創立100周年を見据え、地区協会として小さな課題から大きな目標までしっかり取り組めるよう活動していきたいと思えます。

## 【小樽地区】

## 小樽地区サッカー協会の現状と今後の展望



小樽地区サッカー協会 理事長 柴田 靖士

小樽地区では急速に進む少子化により、サッカーチームの休部・廃部や合同化が進み、チーム編成の維持が困難な状況が続いている。小樽市の中学校では部活動の「拠点化」が導入され、通学先に関係なく活動が可能となったほか、余市町では地域クラブが創設され、スポーツに取り組む環境が地域主導で整備されている。一方で、選手数の減少により各種別の間での選手移行に課題があり、継続的な競技環境の維持が求められている。

競技面では、北海道大会や全国大会での活躍が見られ、2024年度には女子チーム DIVERTI が全国 O-30 女子サッカー大会で 4 位に入賞した。また、CANALE 小樽、北照高校、Regaris 小樽 U-15、北照高校女子、小樽 Corsario などが各トップリーグに参入し続けており、地区としての競技レベルの高さを維持している。

組織面でも活発な取り組みが行われており、審判委員会はオンライン研修やリフレッシュ研修、ユース審判員の育成などに注力。技術委員会ではトレセン活動を中心に選手の発掘・育成を行い、上級ライセンス取得支援を通じて指導者の質も高めている。規律委員会ではウェルフェアオフィサー(WO)の養成を行い、安全で安心な試合環境づくりを推進。クラブ単位での WO 配置もほぼ完了している。

普及活動にも力を入れており、小樽フットサルカーニバルでは多世代が交流。天然芝のグラウンドでの整備活動も住民参加型で行われ、地域とスポーツのつながりを深めている。キッズ委員会では、フェスティバルや園巡回指導を通じて、子どもたちに運動の楽しさを伝え、指導者養成

にも力を注いでいる。幼稚園教諭や学生もキッズリーダー講習に参加し、普及の裾野が広がっている。

また、小樽市出身の J リーガー(菅大輝選手、加藤蓮選手)、WE リーガー(山谷瑠香選手)の国内外での活躍は、地域の誇りであり、若い世代の目標となっている。今後は既存施設の有効活用、リーグ運営環境の整備、さらには各委員会の連携を強化し、幼児からシニアまで誰もが関わられるサッカー文化の継承と発展を目指していく。創立 100 周年に向けて、地域・団体一丸となった取り組みが続いている。



全国大会 第 4 位 DIVERTI



キッズサッカーフェスティバル

## 【空知地区】

## 空知地区の現状について



空知地区サッカー協会 理事長 磯辺 正道

空知地区におきましては、近年の人口減少に伴う少子化の進行により、サッカーチーム数および選手数の減少が顕著となっております。また、指導者の確保を含め、多くの課題に直面している状況です。今後、さらなる都市部への人口流出も懸念されており、地域の学校やクラブチームの縮小を想定しなければならない現実があります。このような背景のもと、将来的にはチームの合同・統合、さらには他地域との広域的な連携強化などが求められることも想定されます。しかしながら、そうした困難な状況下においても、各カテゴリーにおいては関係者の皆様の献身的な努力により、選手の育成と地域活動が力強く進められております。

4種(U-12)においては、昨年度の「JFA 第48回全日本U-12 サッカー選手権大会(全道大会)」において、くりやまフットボールクラブが準優勝という素晴らしい成績を収めました。選手数の減少が進む中でも、リーグ戦や学年別大会など、活発な運営が継続されています。

3種(U-15)では、文部科学省が推進する中学校部活動の「地域移行」が2023年度より段階的に進められており、2025年度の完全移行を目指しています。岩見沢FCはその先駆けとして、地域拠点校方式による取り組みが3年目を迎え、地域に根ざした中心的な価値を創出しています。また、中学女子サッカーチーム「岩見沢FC ルファヴェニー

ル」も今年で6年目を迎え、地域を代表するチームとして安定した活躍を続けています。さらに、昨年度より「日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会」の一部を本地区にて開催しており、今年も8月15日～17日に夕張サンダースポーツヴィレッジおよび栗山ふじスポーツ広場にてグループ予選、19日に決勝トーナメント32を予定しています。協会一同、微力ながら鋭意準備を進めておりますので、皆様方の温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

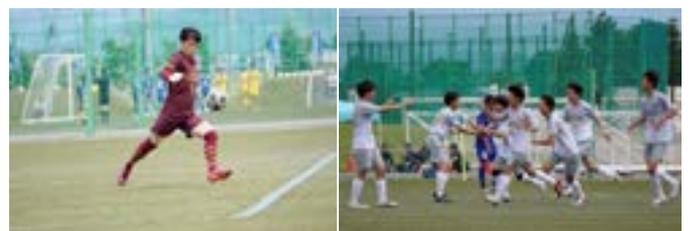
2種(U-18)においては、旧岩見沢東高等学校と旧岩見沢西高等学校の統合により本年4月に新設された北海道岩見沢東高等学校が、全国高等学校総合体育大会サッカー競技空知支部予選にて優勝し、全道大会ではベスト4という快挙を成し遂げました。

1種においても、北海道教育大学岩見沢校およびBTOP北海道が、北海道を代表する強豪チームとして活躍しており、地域に大きな活力を与えてくれています。

最後に、各種別における未来へと続く希望に満ちた活動が、地域全体での支援と連携によりさらに発展することを願っております。そして、選手はもとより、指導者・審判・協会関係者が今後の多様なニーズに柔軟に対応し、空知におけるサッカー活動の持続的発展に繋がることを心より祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



北海道岩見沢東高等学校 空知支部予選優勝



令和7年度全国高校サッカーインターハイ(総体) 北海道予選ベスト4

【釧路地区】

## 2024 年度の状況と今後



釧路地区サッカー協会 理事長 川村 淳浩

多年にわたるサッカー／フットサル振興の功績で、令和6年度釧路市スポーツ賞が佐藤茂本地区名誉会長に贈呈されました。栄えある受賞式が令和6年10月10日(木)に開催され、多数の出席者の大きな祝福に包まれました。

以下、種別毎に状況等を報告いたします。

キッズでは4～6歳を対象としたサッカーズクールを毎年複数回開催しており、サッカーを通して運動能力の向上と身体を動かすことの楽しさを体験してもらっています。

女子サッカーではU-12・U-15・U-18、同フットサルではU-15のカテゴリでリーグや大会に参加して善戦しました。また、4種女子トレセンも継続している他、新たにインスタを開設して活動の様子を積極的に発信しています。

第4種サッカーではU-9・U-10・U-11・U-12、同フットサルではU-10・U-12のカテゴリでリーグや大会に参加して善戦しました。また、釧路市と千葉県八千代市との友好都市協定のもと少年少女交歓大会がコロナ禍あけ6年ぶりに開催され、サッカー交歓大会では釧路トレセンU-12の選手が参加して交流を深めました。

第3種サッカーではU-15・中体連、同フットサルではU-14・U-15のカテゴリでリーグや大会に参加して善戦しました。また、フットサルU-15カテゴリの道東ブロック予選と北海道代表決定戦が本地区で開催されました。

第2種サッカーでは地区内リーグやブロックリーグの他、釧路地区での各種大会に参加して善戦しました。また、東北海道高校ユースサッカー新人大会が本地区で開催され

ました。特に、同フットサルでは釧路北陽高校が北海道代表決定戦で準優勝し、第12回全日本フットサル選手権大会への出場を決めました。

第1種サッカーでは、道東ブロックリーグと社会人リーグに参加し善戦しました。また、同フットサルでは、全日本選手権大会北海道代表決定戦と全道選手権大会一般の部が本地区で開催されました。

シニア種では、2リーグ構成によるプレミアリーグが開催され、エンジョイサッカーのもと爽やかな汗を流しました。

その他、第2回ウォーキングフットボールを開催し、年齢・性別・障がいの有無を問わずサッカーの楽しさを実感してもらうことができました。

2025年度も各種別のトレセンや地区大会に加えて、サッカーの全道大会・フェスティバルやフットサルの全道大会・北海道代表決定戦・全国大会が本地区で開催される計画となっており、年々増加傾向となっております。これらは、本地区審判委員会をはじめサッカー競技をこよなく愛する関係者が種別を超えて協力し合う本地区最大の特徴によって支えられております。加えて、釧路は夏の平均最高気温が約21度であり一年を通して冷涼であることで、選手の安全とパフォーマンスを両立できる環境も大きな要素となっております。今後もこれらの魅力を更に発展させるために、若年層選手・指導者・審判員等の育成強化に加えて、人工芝ピッチの設置に向けた働きかけを積極的に進めていきたいと考えています。



【北空知地区】

## 活動の成果と今後の課題について



北空知地区サッカー協会 理事長 鈴木敏之

2024年度の活動と、今後の課題を紹介いたします。

1種のサッカーにおきましては、道北ブロックリーグに参加が1チーム、地区リーグに参加が3チームとなっており、登録チームが減少いたしました。また、フットサルにおきましては、道北ブロックと旭川クリスタルリーグに2チームずつ、地区リーグに10チームの参加があり、前年より4チーム増となり、フットサルにはわりと参加しやすいのかと思われます。

2種についてですが、登録が2チームと寂しい状況です。

そんな中、8月には毎年恒例となっている、北空知サッカーフェスティバルを開催し、4日間で延べ53チームの参加をいただいております。

3種についてですが、登録が4チームとなっており、依然厳しい状況ではありますが、スタッフの創意工夫の元、多くの選手が試合に出場できる機会を設けながら、大会運営を行っております。

4種についてですが、登録5チームと前年に比べ3チーム減となり、大会の開催は全種で1番多いのですが、少子化の波はさらに大きく、キッズ活動の拡充が喫緊の課題と

なっております。また、各チーム間での学年別選手数のバラツキが依然大きく、なかなか拮抗した試合にならない現状となっております。

全道大会の主管についてですが、新たに全道フットサル選手権大会 U-12女子の部を芦別市で開催し、全道各地より15チームの参加をいただきました。また、全道シニアフットサルオープン大会を滝川市で開催し、40才から70才まで各世代合計34チーム、また沢山の女子選手の参加をいただき、盛会裏に終了することができました。

2025年度ですが、8月に芦別市で U-12ガールズゲーム第13回熊谷・高瀬杯、12月には前年に引き続き全道フットサル選手権大会 U-12女子の部、3月には全道シニアフットサルオープン大会を予定しておりますので、本年度も沢山のチームに参加いただきたいと思いますので、よろしく願い申し上げます。

小さな協会ではありますが、色々な工夫をしながら、皆がサッカーを楽しめる環境作りを引き続き進めてまいります。

## 【千歳地区】

## 地区の現状と今後の展望



千歳地区サッカー協会 理事長 北国 浩

当地区は、千歳市・恵庭市・北広島市の3市各サッカー協会構成されています。2024年度のチーム数は41チーム、選手登録数は1359名、3種チームが4チーム減となりました。前年度と比較しますと、選手登録数は12名、チーム数は4チームの減少となっています。3種においては、中体連合同チームの登録が多く見受けられます。4種においては、U9以下世代へ楽しめるサッカーとフットサルの取り組みとして、サマー・ウィンターフェスタを開催しています。試合以外での活動では、審判に対しての接し方や発言、観戦マナーの注意喚起等々を含め、ハンドブック『めざせ！ベストサポーター』を各チームへ配布した他にマッチウェルフェアオフィサー部門を新設、2025年度からは、地

区内の幼稚園や保育園への巡回指導を推進していきます。女子においては、大学女子サッカー一部が登録され、初の大学選手権北海道大会に出場しました。また、女子スクール活動や女子トレセン活動も活発に行なっており、特に小学校低学年女子選手の参加が増えており、2025度から女子U15チームを立ち上げ、小・中学生女子選手の普及・拡大により注力していきます。今後の展望として、誰もがサッカーの楽しさに触れられる環境づくりの構築に向けて、各自治体や関係機関との連携による施設整備を進めるとともに、危機感を持って、地区協会と各種年代指導者の力を結集し、サッカーファミリー拡大を目指します。

【道北地区】

## 道北地区の現状と課題



道北地区サッカー協会 理事長 谷口 直寿

道北地区サッカー協会は、各カテゴリーで登録はあるものの、登録数がチーム・個人とも少ないのが現状で、合同チームで予選参加するなど、工夫を凝らしながらなんとか存続維持に努めていますが、解決策には至っていないのが現状です

対策として、これまで継続して基盤作りのため取り組んできた、キッズ年代の教室やフェスなど普及活動を進めてきました。最近では、参加者も少しずつ増え、4種低学年の促進にも繋がってきているのも見受けられるので、今後もサッカーの楽しさを子供たちに感じてもらい、保護者にも一緒に感じて貰えるよう、様々なアイデアを取り入れ、継続的な活動につながるよう取り組んでいきます。

また、4種に女子が登録されているものの継続的に活動できるような環境が整っていません。今後は少年団活動だけでなく、合同で練習し交流をはかり、女子大会、フェス

に積極参加するなど、3種活動もスムーズに移行できるよう、モチベーションを維持できる取り組みを進めていきます。

さらには、中学校や高校の部活動の地域移行に伴う課題もあり、教育委員会や学校、各自治体など関係機関と協力し、サッカーを安心して継続できるよう、積極的に協会指導者も参入しながら、環境整備を図ってきました。

今後も活動に対して課題も出てきますが、解決に向けて取り組んでいきます。

サッカーがこの地域で維持するためにも、楽しさをあらゆる世代と共有していくため、大人が選手として活躍するだけでなく、審判や指導、大会運営など様々な関わりを持ちながら、基盤を作っていくことが重要と考えています。今後も道北地区協会一丸となって計画を持ちながら、魅力を広められる活動を推進していきます。

## 【オホーツク地区】

## オホーツク地区サッカー協会の現状と課題



オホーツク地区サッカー協会 理事長 中田 孝一

オホーツク地区では、2016年4月に、『16→25プラン』と次の10年に向かって進むために独自のプランを掲げました。「リーグ文化の醸成」、「女子選手数の倍増」、「施設の充実」、「みんなつながっている」を重点課題とし、役員一丸となって取り組んでおり、今年度が計画の最終年度となります。

重点課題の1つである女子選手数の倍増については、難しい状況ではありますが、ガールズサッカースクールを開催するなど、女子委員長や指導者スタッフの尽力により選手数の減少が留められております。

またオホーツク地区から1級審判員を目指し、北海道レ

フェリーアカデミーに参加しております。近年は審判員も減少している中、当協会としても、応援するとともにサポートしていきたいと考えております。

当地区の課題としましては、サッカーに限らずどの競技にも共通します少子化による競技人口の減少が深刻化しており、当協会のサッカー人口も減少しています。平成24年度のピーク時の登録人数の約4割となっております。今後も継続してキッズ年代にサッカーの楽しさを伝えたく幼稚園等への巡回指導やキッズ教室を開催しファミリー拡大などの目標達成に向け進めていきたいと考えております。

【根室地区】

## 根室地区協会の現状と今後の展望



根室地区サッカー協会 理事長 高橋 勇樹

根室地区サッカー協会の現状としては、昨年同様にチーム数及び選手数の減少が著しく、登録チーム数が減少傾向にあります。

キッズの取り組みとして、積極的な巡回指導及び集合型のサッカー教室を開催し、年に一度キッズサッカーフェスを通じて、試合の楽しさを知っていただく機会としていました。昨年度はさらに、冬期間の取り組み強化及び第4種へのつなぎとして、キッズフットサルフェスを2地域で開催しました。初年度としては、好評であり今後も継続し、根室地区全地域で開催できるよう取り組みを進めます。第4種は、試合数を確保し、いずれの 카테고리 も多く試合に参加することでサッカーの楽しさを伝えることを継続して進めているところです。トレセン活動についても積極的な取組を地区として推進し、他地区との交流から得られるサッカーの楽しさに強さがプラスされるよう活動にアクセントをつけ進めているところです。

現在地区として大きな課題となっていることが、第3種年

代のサッカー競技活動の継続についてです。部活動としてもチーム数が減少傾向にある中、第4種から第3種へ移行した際の試合数が少なくなってしまう問題や地域クラブへの移行など問題点が多く、積極的に地区サッカー協会として関わりを持つ必要があると感じています。そこからつながる2種年代も決してチーム数、登録選手数が多いわけはありませんので、各種別が積極的な取り組みを継続し、自身の市町や管内にとどまることができるよう、魅力ある活動を推進していくことを昨年と同様に長期的な取り組みとして進めていきたいと考えているところです。

地域は広いものの人口は他の地区に比べ少ない地域ではありますが、各種別の中で各カテゴリーの問題点を適切に把握し、目的意識を持ち、地区協会として連携を強化することにより、魅力のあるサッカー活動を推進していくことは可能であると思いますので、更なる深化推進に向け活動を進めていきます。

## 【宗谷地区】

## 宗谷地区で出来ること



宗谷地区サッカー協会 理事長 本山 哲司

人口減、人口流出、自然減が加速し深刻な状況となっている宗谷地区ですが、熱き関係者たちの思いで「サッカー人口を増やし、質を上げ、老若男女すべての世代でサッカーに関心が持てる」をテーマに活動しております。

①離島を含む管内全幼稚園、保育所を最低1回は巡回する。また、幼稚園児を対象にした、サッカースクールを開催する。

②巡回授業から少年団へ入団のきっかけを作り、低年齢からのサッカーに携わる機会を創出する。

③トレセン活動を頻繁に行い、常にサッカーを考えさせる環境づくりの構築を設ける。

④全道大会やブロック大会で他地区とのチーム・個人が戦えるチームの育成。

⑤単独チームが作れず、リーグ戦が開催できなかった社会人チームの活動の場を提供し、宗地区独自の1～3種

(トレセンチーム)+女子の合同リーグの創設。

⑥リーグ戦を増やすことでの審判員増加・育成をすることによる質の向上。

⑦指導者・チーム関係者の質の向上。MWO・CWO 取得へ向けての意識改革。

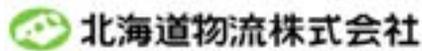
⑧地区協会関係者の交流をする場、コミュニケーションを取り、情報の交換をする場の設定。

以上、この取組に向かい活動していく。その一方、宗谷地区として来年また一人「Jリーガー」が誕生することは、大変うれしいことであり、さらなる進化を見せてほしい。そしてその背中を追いかけ次世代の選手が飛び立ってほしいと共に、上記8点を厚く取り組んで行く次第です。

各地区、課題はあろうかと思いますが、サッカーファミリー全員で北海道を盛り上げていきましょう。「日本のてっぺんを熱くする」をテーマに宗谷地区は頑張っていきます。

## SOCCER FAMILY

# ご寄付をいただいた法人のご紹介



税理士法人 田中会計事務所

富士園産業 株式会社



榊原工業 株式会社



株式会社 誠和工業



北海道川崎建機株式会社

 東亜道路工業株式会社

皆さまからのご寄付は、道内サッカー・フットサル事業の未来につなぐ活動に使用させていただきます。心より感謝申し上げます。